

令和5年11月24日  
高齢施策担当部高齢者支援課

## 地域ケア会議の実施結果概要

区では、地域ケア会議について区全域単位で実施する「地域ケア推進会議」、日常生活圏域単位で実施する「地域ケア圏域会議」、地域包括支援センター担当区域単位で実施する「地域ケアセンター会議」、「地域ケア予防会議」、「地域ケア個別会議」を実施している。

### 1 日常生活圏域ごとの会議（地域ケア圏域会議）

#### (1) 目的

地域ケアセンター会議で把握された地域課題を4つの圏域単位で協議する会議。地域の様々な関係機関で地域課題を共有し、それぞれの役割分担を整理し、地域課題の解決を目指す。

#### (2) 各圏域の開催日・テーマ・目的・主な参加予定者・主な意見について

##### ① 練馬圏域（10月20日開催）

【テーマ】認知症とともに自分らしく生きられる地域づくり

【目的】各包括の認知症への取り組みの報告から、それぞれの地域でできることをあらためて考える機会とする。

【主な参加者】民生委員、町会役員、薬局、三療師会、地域活動団体

【主な意見】

- ・民生委員の訪問や薬局・コンビニ等の関わりの中で把握されるケースも少なくなく、地域には、思っているよりも多くの認知症の方がいる。いろいろなアプローチ方法を考えて、本人と関わっていく必要がある。また、人と話す機会や外出する機会をもっと作る必要も感じる。
- ・認知症の方やその家族だけでなく、地域の方に広く認知症についての正しい知識を持ってもらう必要がある。（包括が小中学校で認知症サポーター養成講座やN-improを行っているのは意義がある。）

##### ② 光が丘圏域（10月20日開催）

【テーマ】「命を守るための防災について～地域の防災力を高めるために一人ひとりができること～」

【目的】災害時の自助、共助の力を高め、防災にも強い地域づくりを考える

【主な参加者】 民生児童委員各地区会長（光が丘管内）、光連協会長  
三療師会、練馬区区民防災課、光が丘管内地域包括  
支援センター、練馬区社協光が丘ボランティア・地域福祉推  
進コーナー

【主な意見】

防災課職員による在宅避難において必要な準備についての講話を聴いた上で、個人として地域としての現状や課題と今日からでも出来る防災対策について議論した。

- ・個人や地域、職場としても準備が不十分な点や定期的な確認が重要である事が確認された。具体的には、ある自治会では乾電池の寿命（7年）が切れていて廃棄し入れ替えた事があった。区の職場では、災害支援に当たるにしても職員自身の備蓄が不十分であるなど。
- ・一つの焦点となったのがトイレの問題。高層の建物が多い光が丘地区では特に切実な問題であり、使用を中止した後再開がどの状況になったら出来るのか現在明確な規準がないとのこと意見があがっていた。

③ 石神井圏域（10月6日開催）

【テーマ】「8050問題の現状と支援について

～支援の現状・困難に感じている事～

【目的】 地域包括支援センター、保健相談所、生活サポートセンター、練馬区それぞれの取組みと現状、問題や課題などを報告し合い、それぞれの役割を理解しつつ、今後どのように支援をしていけるのかを考え、実践に活用できるようにする。

【主な参加者】 民生委員、石神井警察署、練馬区医師会、練馬区歯科医師会、社会福祉協議会 生活サポートセンター、関町ボランティア・地域福祉推進センター、ほっとサポートねりま、地域包括支援センター、石神井総合福祉事務所、生活福祉課、保健相談所、高齢者支援課

【主な意見】

- ・各関係機関の取組みと現状や課題が分かり、今後連携していくうえで参考になった。また複合的な課題を抱えた世帯の支援は時間がかかることを関係機関で共有することが必要。
- ・関係機関のそれぞれの立場によってスピード感が違うので連携・支援する際の難しさがある。
- ・50 側を支援するところがないことがある。不登校や若年時からの引きこもり支援も必要。

- ・50 側の引きこもり等への支援として、QR コード付きのチラシをコンビニに置いたり、インターネットを活用し声を出しやすいようにするなど工夫が必要。

#### ④ 大泉圏域（10月20日開催）

【テーマ】高齢者の消費者被害について

【目的】圏域の高齢者の消費者被害について、令和3年度のアンケート結果をもとに情報共有を図る。

実態や具体的対応を知る事で今後の被害防止に結び付ける。

【主な参加者】地域包括支援センター、居宅介護支援事業 CM、地域活動団体、認知症家族会、練馬認知症の人と家族の会、練馬区三療師会、練馬区社協 大泉ボランティア地域福祉推進センター)

【主な意見】

- ・特殊詐欺被害に遭うのは70代以上の高齢者がかなりの比重を占める現状の中で、高齢者の地域生活支援にあたる行政、包括、介護事業所職員、民生委員等が高齢者の何気ない一言から詐欺を見抜き、早期に被害防止に努めるためにどのような事例が多いか日頃からアンテナをはり、注意喚起を行う重要性を認識した。
- ・未然防止策として、警視庁の防犯アプリや消費生活センターの発行紙を活用し、被害の多い事例の情報収集に励むことが大切である。

## 2 地域包括支援センターごとの会議

### (1) 地域ケアセンター会議

#### ①目的

地域ケア個別会議と地域ケア予防会議を通じて抽出された地域課題について、その解決に向け、地域で暮らす・働く・活動する関係者で話し合う。

#### ② 実施回数

令和5年度上半期 28回（27センターで各1回以上開催）

#### ③ 主な参加者

民生・児童委員、町会・自治会、老人会、訪問支援協力員、介護サービス事業所（ケアマネジャー含む）、医療機関、警察署、社会福祉協議会、図書館、敬老館等

#### ④ 主な検討事例

##### ア 認知症の方への支援について

「認知症の方にやさしい街づくり」をテーマに、認知症の方が尊厳を保持し、希望を持って暮らすことができるように、現在の区の施策や包括での取組みに

ついて報告し、理解を深めた。

(主なご意見等)

- ・ 認知症にも色々な症状がある。見守り、支援をする地域の方の、認知症に対する理解が必要である。
- ・ 介護保険のサービス外のことで、地域で支え合うことができるのではないかと思う。
- ・ 地域の少しずつの支援が大きな力にある。そのため、町会の存続が重要である。

#### イ 地域の防災について

「災害時にいのちを守るために各々ができること」をテーマに、地域住民、関係機関が知識を深め、防災に対する意識を高めるために何が必要か考えた。

(主なご意見等)

- ・ 地域の防災について、改めて考える良い機会となった。
- ・ 防災についての区や地域の取組みを知ること、重要性を再認識し、いざという時のために備える意識が高まると思うので、情報を共有することを目的とした会議等の機会が欲しい。

#### ウ 8050 問題について

「8050 問題の理解と練馬区の現状」をテーマに、地域に暮らしている 8050 問題の現状を理解しそれぞれの立場でできることを考えた。

(主なご意見等)

- ・ チラシや回覧板を利用して地域の行事等を案内し、「出かける場」「相談できる場」を周知していきたい。
- ・ すぐに解決することは難しいが、ゆるやかな見守りが大切であると理解することができた。
- ・ 取り組む第一歩として、地域で挨拶から関係づくりをする、地域の気付きを共有するなど、できることの認識を共有できた。

#### エ 高齢者の消費者被害について

「高齢者の消費者被害の現状を知る」をテーマに、現状や注意喚起について、各々の理解を深めた。

(主なご意見等)

- ・ 還付金詐欺の電話を実際に受けたことがある方から、録音機の効果について話が聞けてよかった。
- ・ 色々な状況において、「詐欺の被害に遭っているかもしれない」という客観

的な視点を養ういい機会になった。

- ・ 地域の関係者同士、地域について考えることの大切さを再認識できた。

## (2) 地域ケア予防会議

### ①目的

多職種協働により個別ケースを検討し、自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントの実施を支援する。

### ②実施回数

令和5年度上半期実績 27回

### ③主な参加者

理学療法士、作業療法士、保健師、管理栄養士、歯科衛生士、主任介護支援専門員、地域包括支援センター

### ④主な検討事項

今年度より、KDBシステムおよび高齢者能力向上トレーニング終了者の中で、低栄養・身体的フレイル・重症化予防等の観点から、課題を持つケースを抽出し、より効果的にケアマネジメントを実施するために検討を行った。

- ・ コロナ禍で外出機会が減り、筋力の低下によるふらつき等がある方の支援について
- ・ 抗がん剤治療の影響により体力が低下し出来ないことがあるが、出来ることは自分でやりたいという強い意志を持った方の支援について
- ・ 人工透析のため週3回通院しており、調理の習慣がなく食事管理が困難な方の支援について
- ・ 左不全麻痺、坐骨神経痛がある方の歩行能力改善に向けた支援について

## (3) 地域ケア個別会議

### ①目的

個別ケースの検討を通じて、高齢者の課題解決を支援するとともに、課題解決に向けた社会資源の把握や地域包括支援ネットワークの構築を図る。

### ②実施回数 ※27か所で実施した合計

令和5年度上半期 148回（9月末まで）

### ③主な参加者

本人、家族、民生・児童委員、医師、医療機関相談員、担当の介護支援専門員、社会福祉協議会、司法書士、介護サービス事業所、障害サービス事業所、保健相談所、総合福祉事務所、生活支援員、地域包括支援センター 等

### ④主な検討事項

- ・ 認知症のある夫婦が地域で生活するために

- ・徘徊のために安全が保てない方の支援について
- ・退院後の高齢者夫婦の在宅生活を支援していくために
- ・8050 でともに支援が必要な家庭への対応について
- ・精神疾患のある息子との生活継続の支援について
- ・ひとり暮らし高齢者が特殊詐欺被害に遭わないために
- ・治療中断となっている精神疾患高齢者のアウトリーチについて